

## 牧師所感： 召命から使命へ

私は2週間に一度病院に行く。血圧を下げる薬を受け取りに行く。もうかれこれ20年病院通いである。ところが年を取って80代の高齢者として生きる上で、生きるのが苦しいと思ったことはない。だが<sup>よわい</sup>90歳を過ぎた途端、気のせいか、自分の振る舞いがぎこちなく、老人くさくなつて行くような気がしてならない。

実際歩くのも前のようにではない。よたよたと力なく歩く自分を発見する。80代の末、病院の先生から、「もう年だから転ばないように杖について歩きなさい」と言われたことが思い出された。

さて、この世の先輩、例えば私より一つ上の小説家五木寛之氏、女流作家のカトリックの信者曾野綾子氏、今は亡き瀬戸内寂聴和尚様、諸氏の晩年の生き方に学ぶ。

上のお二人、五木寛之氏、曾野綾子氏は今も健在だが、寂聴和尚の生前の生き方には多くを学んだ。百に一つ下の生を全うした仏教会の先輩を偲ぶ。

さて宗教は違うが、私はキリスト教の牧師である。牧師は牧師としての生き方がある。その生き方というのは聖書の教えである。旧約聖書詩篇92:13~16に

「神に従う人はなつめやしのように茂り レバノンの杉のようにそびえます。

主の家に植えられ わたしたちの神の庭に茂ります。

白髪になつてもなお 実を結び 命に溢れ、いきいきとし 宣べ伝えるでしょう

わたしの岩と頼む主は正しい方 御もとには不正がない、と。」（新共同訳）

もう一首 ロバート・ブラウニング著

ラビ・ベン・エズラの詩

老いやけよ、我と共に！ 最善は これからだ。

人生の最後、そのために 最初も造られたのだ。

我らの時は 聖手の中にあり 神 言い給う

「すべて私が計画した。青年は ただ その半ばを示すのみ。

神に委ねよ。全てを見よ しかして 恐れるな！」

おわりに、音楽を学びに日本に留学したのだが、神の召命によって牧師になり、日本で宣教師の使命を与えられ92才を生きる。日本に栄光あれ！！